

トピックス

2012年9月13日、プロモーションコード委員会主催の「第15回コード実務担当者会」が開催され、63社63名のコード実務担当者(代理出席を含む)が参加しました。赤田副実務委員長の司会のもと、新川委員長の開会挨拶、森田実務委員長の委員会活動報告、石踊実務委員の製品情報概要審査会報告、高井実務委員の「今年度理解促進月間の施策および各社の昨年度取り組み状況報告」に加え、会員会社から「昨年度理解促進月間の取り組み」について紹介がありました。その後、「ITサービスを利用したプロモーション」をテーマに、ITによる製薬企業向け医薬営業支援サービス提供者から商品説明を受け、それらの商品のコード上の当否等についてグループ討議を行いました。最後に仲谷専務理事より本会の講評がありました。

グループ討議「ITサービスを利用したプロモーションについて」

本会では毎回、参加者にアンケート調査を行い、コード委員会ならびに本会の企画についての評価や要望をお聞きしています。従来と同様に参加者が「最も参考になった」と回答したのはグループ討議で、41名の方に評価いただきました。

グループ討議が参加者から毎回有意義と評価をいただく背景の1つは、コード実務担当者間の関係構築と情報共有に重要な役割を果たしているからです。背景の2つ目はテーマの選定等の企画の斬新さといえます。今回のテーマは、ITによる製薬企業向けの医薬営業支援サービス提供者の協力で、「eディテリング」「eリサーチ」「症例検討会」「症例登録システム」の4つのサービスについて説明を受け、各サー



会議風景

ビスのコード上の当否等について議論しました。グループ討議は10グループに分かれグループごとに出された意見等を討議メモとして提出いただきました。同メモからはコード実務担当者が「サービスの内容を承知していない」、実際に利用している会員会社においても「コード上の社内点検を受けていない」といった実態が明らかになりました。また「業者は行き過ぎたプロモーションにはつながらないとはいうものの、第三者の目に触れないため注意が必要」「社内審査を徹底する必要がある」といった意見が多く出されました。コード委員会への検討要望事項として「IT資材のコード審査上の留意点の提示」等が多くあげられ、関心が高いテーマであったことがうかがえました。

今年度理解促進月間の施策および各社の昨年度取り組み状況報告

今年度理解促進月間の施策について紹介後、2012年8月に実施した各社の「昨年度理解促進月間の取り組み状況」に関するアンケート調査結果について報告がありました。

68社からの回答結果を項目別にみると、「経営トップに対し理解促進月間についてアクションを起こした件数」は合計で2010年の118件から145件に増加しました。「行わなかった」とする会員会社は2010年7社ありましたが、2011年はすべての会員会社が何らかのアクションを起こしました。「MRを対象とした企画」では、「メッセージの発信」が38件と最も多く、次いで「研修の実施」が24件でした。プロモーションコード委員長通知(2010年10月8日)「医療関係者へのコード理解促進策として説明会資料に『プロモーションコードに準拠している』旨を記載する協力依頼」に関しては、(ほぼ)すべての説明会資料に掲載したとする会社が2010年の14社から17社に増加し、(ほぼ)すべての説明会資料に掲載していないとする会社は2010年の16社から12社になりました。また、プロモーションコード委員長・製品情報概要審査会委員



野中コード実務担当者

長通知(2010年10月21日)「総合版製品情報概要に『製品情報概要記載要領に則って作成している』旨を記載する協力依頼」に関しては、(ほぼ)すべてに記載と回答した会社が2010年の12社から26社に増加しました。過去1年間に他社にコードに関する苦情等を申し入れたことがあると回答した会社は32社で、以前のアンケートと同様に最も多かったのは「プロモーション用印刷物および広告」の25件、次いで「MRの行動」の16件でした。

今回は、味の素製菓(株)の野中秀也コード実務担当者から「昨年度の理解促進月間の具体的な取り組み状況」について紹介いただきました。同社では、昨年度の理解促進月間において、MR継続研修の目的を具体的に示すとともに毎週金曜日に5つの行動についてQ&A形式のメッセージの発信等の活動を行ったことを報告いただきました。

製品情報概要審査会報告

審査会の概要と活動についての報告後、7月に開催された製品情報概要審査会説明会で採り上げた事項から、「症例紹介(集)作成」と「他社品との比較、有効性、安全性に関する記載」について解説がありました。

(プロモーションコード委員会 会合企画チーム)